LUZ の熊野古道案内

2008 年　8 月　上

８月１日　～　１１日

je2luz.exblog.jp

目次

２００８年　８月

８月　１日　熊野のお盆　**1**
８月　２日　熊野のお盆　**2**
８月　３日　熊野のお盆　３
８月　４日　熊野のお盆　４　里帰り
８月　５日　熊野のお盆　５　礼回り
８月　６日　熊野のお盆　６
８月　７日　熊野大花火　プログラムなど
８月　８日　今年もありました　太鼓の祭典
８月　９日　太鼓の祭典　**2**　手作りから既製品へ
８月１０日　太鼓の祭典　イベントは疲れる
８月１１日　太鼓の祭典　それでも太鼓は響く

2008 年　08 月　01 日

熊野の旅　熊野のお盆　1

熊野のお盆と言えば、灯篭焼きからはじまった１７日の『熊野大花火大会』です。
しかし、これはやっぱり『お盆』の行事の一部分に過ぎませんね。
おまけに、元々、木本町の花火でしたから、熊野全体の物でもないわけです。

熊野のお盆は田舎に多い『月遅れ』の８月お盆です。
お盆の始まりは、８月７日になります。
普通の家のお盆は 13・14・15 日の三日で行事は終わりますが、『初盆』の家では７日にはじまります。この日にきちんと『初盆灯篭』を飾り、山間部の集落では。『施餓鬼』用の『水棚』を家の外に向かって作ります。
これはまさに『施餓鬼』のための物で、外をうろつく『餓鬼共』に施しをする物です。
軒下に棚を作りつけ、餓鬼が食べるように供え物をするのです。
供え物と言っても、家の中の初盆の仏様には、果物や蓮の花を模ったラクガンなどを供え、毎日きちんとお膳も作ります。しかし、外の餓鬼には、芋茎（いもがら）や茄子の刻んだ物だけを供えてあります。ものすごい格差です。
今と違い、貧しくて自分たちが食べるのがやっとの時代に始まった風習でしょうからこれで良いのでしょう。
大体、その頃だと、自分の家の仏様にも今のようにギンギラギンの供え物はしなかった（出来なかった）でしょうからね。
供え物がたくさんになるに連れて、信心心のほうは少しずつ薄れていったような感じもします。

この初盆の仏様に対し、近所の人や縁のある人はお参りします。
この参る風習は全域であるのですが、周辺部では１３日の夕方なのですが、木本町では盆に入った７日以降任意の日でよいみたいです。
参るほうは日を選べるので楽でしょうけど、初盆側の家では 7 日から１３日までずっとお参りに来る人への準備をしておかなくてはならないので大変でしょうね。

もっとも、家の人が居なくても勝手に上がってお参りするのが昔からの習慣ですが…

Tags:熊野市 大又川 モノクロ by **je2luz** | 2008-08-01 11:19

2008年 08月 02日

熊野の旅　熊野のお盆　2

初盆の祀り方も集落によって少しずつ違いがあります。

地方によって…ではなく、集落によって…なのです。

日本全国、共通なのは仏様が里帰りしてくると言うことくらいでしょうかね。そして、お寺さんでは『施餓鬼』と言う餓鬼・亡者への供養をすること、盆踊りを踊ることでしょうか…

そもそも、最近では『盂蘭盆会』なんて正式名すら忘れられてきているのかも…

目に見えるところでは、仏様の里帰りより、都会に出た人が里帰りする姿の方が目立つのが田舎のお盆風景です。

高度成長期の頃には、いかにも『都会から帰ってきた…』と言うような、小奇麗な服装の若い衆が一杯うろついていた物です。

お盆と正月に故郷に帰れるのがすごく嬉しかった時代なのです。

大型連休だ、有給休暇だなんて無かったですから、まとめて休みの取れるお盆と正月がものすごく楽しみだったわけです。

まとめて…と言っても三日とか五日とか位までだったのですが…

年中休みの時代になるとともに、こうした大量帰省の風景が減ってきたように思えます。

大阪・名古屋くらいにいる人は、道路もそこそこ良くなっているのでお盆とかではない時に帰ったりしていますからね。

昔、帰省していた三日や四日の休みなら年中ありますからね。

田舎の同級会はお盆と正月に多いのです。

卒業生の 90%以上が他所にいるのですから、多くが地元に居る可能性があるのは年にこの二回だけです。

お盆も正月もそこそこ行事があります。帰ってきた人もそう長くは滞在しません。したがって、同級会をやれる日は限られます。

お盆で言えば１３日は初盆の家へのお参りや自分の家への仏様を迎えることなどがあります。１５日はお盆本番で昼にはお寺の施餓鬼などがあり夜には送り火があります。

比較的何も無いのが真ん中の１４日かお盆の終わった１６日です。

熊野だと１７日の花火まで残る人も居ますが、すでに１６日でも帰ってしまうのが日本の里帰りです。
１７日は熊野大花火大会なので会場のほうも同級会どころではありません。
だから、１４日の同級会が多くなります、

大きな料理屋とかホテルなんて無い熊野です。まして周辺部には会場なんてありませんから、中心部のほんの数箇所の会場が奪い合いになります。うんと早目に押えないと同級会も出来ません。
昔は母校の教室を借りて学校でやったりした物です。
立派な料理が無くても、例え「柿の種」しかなくても、昔の顔ぶれが揃うことが楽しみでしたからね。
学校も無条件で教室を使わせてくれましたね。
今年のお盆にもいくつかの同級会が行われるのだと思います。
その数は減っているようですが…

夏の同級会の写真を探すのが面倒なので…
１９６１年（昭和３６年）正月、熊野市立飛鳥中学校でやった同級会の記念写真です。

カメラは　**ニコン F+ニッコール 50mm f 2**
Tags:熊野市 昭和 モノクロ　by **je2luz** | 2008-08-02 13:44

2008年　08月　03日

熊野の旅　熊野のお盆　３

日本中お盆はありますね。
そのほとんどは月遅れの８月お盆だと思います。
この辺では、『桃の節句』も『端午の節句』も月遅れです。
元々旧暦で決めた季節の行事を新暦でやると合わない物もありますね。
桃の節句も３月３日にやると、桃の花が咲かないんです、
そのおかげで園芸屋さんが温室で咲かせた桃の切り枝が高く売れるのですがね。

お盆の祀り方も色々ですが、絵本などでは茄子を馬にしたりして供えていますが、私が子供の頃にはこの辺ではそのような物は供えませんでしたね。
雑誌や絵本は東京中心に作られるのが多いので、雑煮の餅を四角く描く位ですからね。

お盆と言うものの扱いは、『宗教』によって当然違いますね。
一般的な『仏教』では『盂蘭盆会』（うらぼんえ）として各家とお寺さんとで盛大に？行われます。
そして、盆踊りも行われますね。
この盆踊りは、学校と言う物が出来て、広い運動場が出現してからは、学校の校庭に場所を移した所が多いみたいです。
しかし…
近年の過疎化と若い人の盆踊り離れで、この広い校庭での盆踊りがものすごくわびしく見えるようになってきた地区もあります。
盆踊りの『輪』が出来ないことすらあるのです。
私が子供の頃のように朝まで踊り明かすなんてことはありません。

かなりの部分仏教的なお盆行事ですが、この辺の『天理教会』では盆踊りをやっていますね。

それに、初盆の家でも仏教と同じように石碑型の初盆灯篭とかを祀っています。
『天理教』は新しいとは言え、『神様系』ですから、灯篭に書かれているのは『戒名』ではなく『本名』のままで『命』になっているようですがね。

この辺に少し残っている『神道』の家も、初盆の家では灯篭だけ祀ってあることがありますね。
『神道』としては何も行事は無いようですが、『初盆参り』の習慣があるので、お参りしてくれる人を断るわけにも行かず…何も無い所を拝んでもらうわけにも行かず…と、言う感じです。

お葬式に行った家、お葬式に行きそびれた家、それぞれの判断で初盆の家を廻ってお参りするのです。
今はどうなっているか知りませんが、昔は役所の出張所がサービスで初盆の家リストを作っていました。

初盆参りのお供えも集落によって随分違います。
当然、お返しも違います。
山間部などはお返しが無く、お供えも集落の申し合わせで金額が決まっている時もあります。ただし、これは集落内の取り決めで外の人には適用されません。
玉を香典袋に入れるのは格好つかないので『千円』が多いようです。
上書きも、仏教の家には『ご仏前』。天理教や神道の家には『ご霊前』などと使い分けるようです。
正規のキリスト教徒の家の初盆がどうなっているかは知りません。土着信仰からは離れているのでしょうね。

この写真は昭和３２年（1957）の盆踊りです。
ものすごく高価なフラッシュを焚いて撮ってあります。その割りに誰を撮ったのか…

時代が時代なので『わかめちゃん』が一杯です。
昼間はつりスカートに白のちょうちんズロースでしたね。
Tags:熊野市 昭和 モノクロ by **je2luz** | 2008-08-03 11:51

2008年 08月 04日

熊野の旅　熊野のお盆　４　里帰り

昔から『盆と正月が一緒に来たような…』と言う言葉があります。
今だと、盆と正月が一緒にきたら休みが長くなってのんびりと…なんて感じるでしょうが、昔式に言うと盆と正月が一緒に来ようものなら大変だったのです。

まず…
お盆とお正月の直前、『盆の節季』『蔵の節季』には支払いが待っています。
買い物や取引が『つけ』で行われていた頃には支払いはこの二回のことが多かったのです。それも、集金に行って…集金に来られて…現金払いだったのです。
ものすごく儲かっている所でも大金が出てゆくし、儲かっていない所では夜逃げを考えたり払えない言い訳を考えたり…

そして…
盆正には他所に行っている一族が帰ってきます。
本家ともなると大変な数の来客を迎えるのです。
田舎に実家があると、嫁に行った娘も子供連れで里帰りします。
息子も嫁さんを連れ、子供を連れてきます。
旦那の兄弟もやってきます。
5家族6家族は当たり前です。おまけに、今と違い子供も三人四人…
あっという間に２０人ほど増えちゃうのです。

家中に布団を敷いて…
これは、イトコだハトコだという子供には楽しいことなのですが、迎える方の『本家の嫁』にとっては大変なことでした。
湿気の多い田舎の家ですから、このたくさんの布団を干して、シーツではなく『敷布』を代えて待つのです。
一団が帰ったら、もう一度干して、「敷布」を外して洗濯して…
洗濯機も無いのに…
私も、母親の里の奈良県下北山村へ行きましたが、大きな母屋と納屋の二階を使った大きな離れ…ここに一杯人間が居ました。
それを、そこのお嫁さん一人で切り盛りしていましたね。

これをやりながら、本来のお盆行事をこなすのです。

こうした本家には必ず仏壇があり、仏様がありますからね。

だから…
お盆と正月が一緒に来られたらそれこそ大変なのです。

それと…
田舎では長男の嫁に成るということは、財産ももらえる代わりに一族郎党の面倒を見る義務も貰うので大変だったのです。
戦後の時代になると、財産は山分けで、古い家と小さな田圃と、仏様と、親戚の面倒だけ貰う嫁になったのです。

Tags:昭和 モノクロ

by **je2luz** | 2008-08-04 12:57

2008年 08月 05日

熊野の旅　熊野のお盆　5　礼回り

お盆の事を書いているうちにお盆に入ろうとしています。

この地方では昔は年に何回か、『お礼』と言って、お寺や本家筋や嫁の里などに届け物をする習慣がありました。
正月・桃の節句・端午の節句・亥の子・お盆・春と秋の彼岸などですね。
正月は鏡餅、桃の節句は菱餅、端午の節句はおさすり（柏餅の変形）、亥の子は塩味の小豆餡をまぶした亥の子餅、春と秋の彼岸は普通の丸餅でした。
真夏のお盆は餅の類の好きなこの地方でも、さすがに餅を食べるような季節ではないので、『素麺』を持っていったものです。

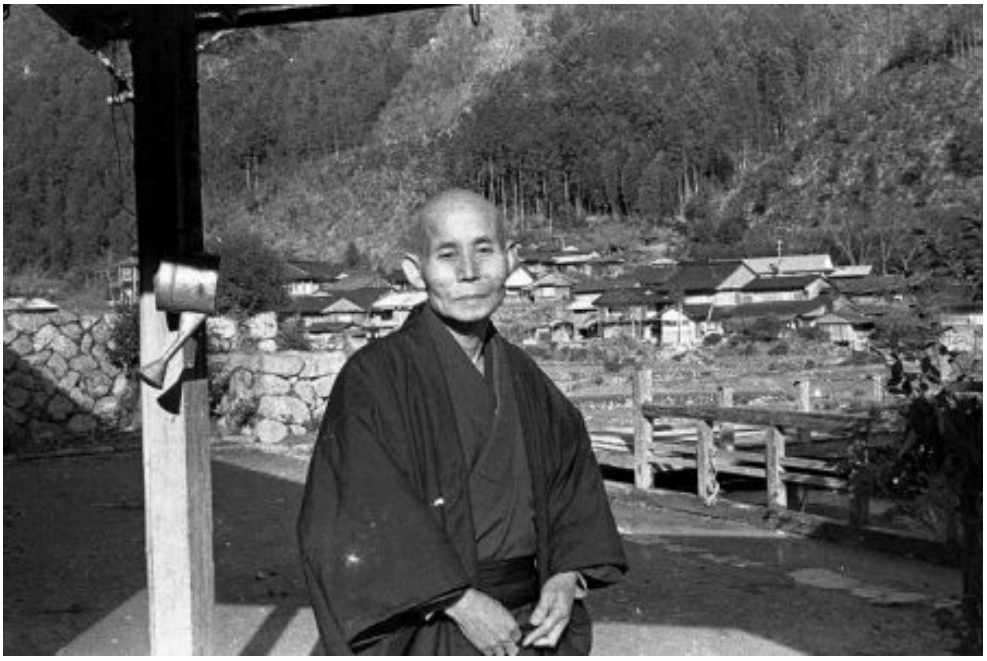
お寺にお供えするときは、こうしたものにお米を添えて行ったものです。

これだけの回数、親戚付き合いするのですからお互いの状況は良く分かっていたと言うことにもなります。
こうした『お礼』に廻るのは子供の役割でした。結構遠くの親戚にも出かけて届けてきました。
小さい時は遠くまで歩いて行きましたし、自転車に乗れるようになるとその行ける範囲が受け持ちに入りました。我が家では小学校の校長先生のところへもお正月などは届けましたね。

この『お礼回り』は結構子供には楽しみな物でした。
行くことは面倒でしんどい物なのですが、『お駄賃』が楽しみだったのです。
私が子供の頃は、まだ戦後の復興期でしたから、小遣いなどまともにもらえないですから、この『お駄賃』は貴重な収入源でした。
正式のお返しは『としのみ』とか言って、空になった重箱の中にマッチが一個とか入っていたものです。持ってきた子供の『お駄賃』は原則、『現金』でした。

この『お駄賃』は家によってものすごく差がありました。
お正月は『お年玉』と言う意味もあり少し多めになるところもありましたが、そうしたときも普段の金額に比例していますからね。
１０円の所５０円の所１００円の所…この格差は大きな物です。
私には４歳上の兄がいました。
ご推測の通り、遠い所と率のよいところは兄貴の受け持ちになりましたね。
残りのところが弟の受け持ち…二人も行ったら先様に迷惑を掛けますしね。
これは仕方の無いことでしょう。

どうやら、もう一回はお盆の話で食いつなげそうです。
明日はこのお礼にまつわる話です。



写真は大口お駄賃をくれた母方のおじいちゃんです。
明治生まれ、山の中の下北山から旧三高に遊学したとか
口数が少なかったこと、いつも凛としていたこと、９０歳を越えても勉強していたこと…そして禿げていたこと…が記憶にあります。

Tags:昭和 モノクロ 熊野市 by **je2luz** | 2008-08-05 14:18

2008 年 08 月 06 日

熊野の旅　熊野のお盆　6

お正月やお盆などに『お礼』に廻ることは書きました。
行き先に『本家』とか『お寺さん』がある事も書きました。
この二つは大体において、『お礼』にきてくれる人が多くなります。
『本家』なども、いまは兄弟が減って分家も減りましたし、分家が地元に残ることもあまりなくなりました。
分家どころか、最近では一人息子と一人娘の結婚が増えてきて二軒の仏様が一箇所に集まってしまう現象が増えています。これも、宗派の問題もあって大変な問題ですね。
最近では、こうした本家と分家…この辺では本家（ほんや)、隠居とよぶこともあります…の関係も無くなって来ていますが、一部では厳然として残っているようです。
こうした本家筋では 5 軒とか 10 軒から『お礼』が来ます。
正月なら自分ところで供えた床の間・仏様・神棚などの鏡餅の他に、鏡餅がその数だけ増えます。
今の人が飾るパック入りの小さな鏡餅ではなく大きな物でした。
昔のように『餅』をご馳走として食べて時代でもとても食べきれる物ではありません。
今のように物を捨てるなんてことはしませんから、アラレやカキ餅にしたり、水につけた『水餅』にして長い間食べなければなりませんでした。
正直言って、おいしくなくなるまで食べなくてはならないくらいでした。

お盆の素麺だと今のスーパーで売っている 500ｇ入りくらいの量が一軒からやってきます。
こちらの方は、前に書いたように夏休みを兼ねた里帰りが本家に転がり込むので消化するのは問題なかったようです。しかし、昔のお中元には『箱入り素麺』が結構多く、その箱も今の飾り箱ではなく『素麺箱』と言われる大きな物でした。
今、ご進物特選コーナーにある木箱入り素麺の特大の箱が昔では小の方でしたね。
そんなお中元が二三軒も集まるととても食べられる量ではありません。

冬になっても『にゅうめん』として食べなくてはなりません。これ又、美味しくなくなるまで食べさせられました。

お寺さんともなると、更にものすごい量になります。
檀家が50軒で鏡餅50組に米が5とうです。田舎の小さな寺でももっとあります。100軒ならその倍ですね。
お米の方は年に何回もあるこうした『お礼』など集まった物で、坊さんの家族が食べ、お寺の行事の炊き出しに使うのでちゃんとバランスが取れていたようです。
お餅とか素麺とかに関して消費するのに随分苦労した時代もあるようです。
時代が下ると『養老院』が出来たり、近年になると色んな福祉施設が出来たので寄付するお寺が増えたようです。
うんと前の食糧難の時代にはお供えも少ないし、余った分をお裾分けする所も多く見つかったのですが、中途半端に世の中が豊かになった頃には下手に『お下がりをあげようか？』ともいえず困ったとか聞きます。
現金でのお供えが有難いからと言って、『現物のお供えお断り』とも、札をぶら下げるわけにも行きませんしね。
でも、民間同士の『お礼』も減っていますが、お寺さんなどの『お礼』『お供え』もものすごい速度の過疎化で、どんどん減っているのでしょうね。

学校の廃校が進んでいますが、そろそろ、田舎のお寺では『廃寺』が始めるのでしょうね。
このままで行くと、田舎には本家も分家も無く、神も仏もなくなりそうです。
それでも、熊野は『神々の里』だそうですから、大丈夫でしょうね。

Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by **je2luz** | 2008-08-06 15:08

2008年　08月　07日

熊野の旅　熊野大花火　プログラムなど

熊野大花火大会のプログラムと交通規制図が配布されました。
昔に比べると、随分と時間が短縮され簡略化しています。
昔は花火と花火の間隔が非常に広く、間延びしていました。
仕掛けやスターマインとか言われるものの制御も全て人手でやっていましたし、花火師さんの間の連絡も懐中電灯の合図に頼っていたので色んな面で時間が掛かったようです。
一気に空一杯埋め尽くすと言うようなもったいない打ち上げ方は無かったですね。
せいぜい、二発ぐらいが同時に開くくらいでした。
今のように、どどどどど！と数発ずつ開いてしまうと、豪華に見えるけど、風情は無いですね。
きれいに開く菊咲きの色とりどりの花火が減って、白っぽくきらきらした物が圧倒的に増えています。
あとは、ネコだサカナだと言った変わり咲きも増えていますし…

真円に開いて一斉に消える…
本来の花火師の腕の見せ所は減っているようです。
見る側も、派手なのを好むようですしね。
赤・紅・緑・青・橙…炎色反応による発色を楽しむ事が減っています。

今年も８月１７日午後７時開始です。
始めの方は『木本の花火』時代から引き継がれてきた、『追善花火』としてのプログラムが多いです。

7：00　初精霊供養
7：15　大会本部長挨拶
7：20　打ち上げ　（鬼ヶ城）
7：25　追善の花園　（七里御浜・鬼ヶ城）
7：30　追善・仕掛け　（台船）
7：35　スターマイン　（台船）
7：40　追善・仕掛け　（台船）
7：45　仕掛けスターマイン　（台船）
7：50　海上自爆
7：55　打ち上げ（鬼ヶ城）

8：00　追善・仕掛け（台船）
8：05　仕掛けスターマイン　（台船）
8：10　スターマイン　（台船）
8：15　仕掛けスターマイン　（台船）
8：20　仕掛けスターマイン　（鬼ヶ城）
8：25　ワイドスターマイン　（鬼ヶ城・台船）

８：30　スターマイン　（台船）
８：45　**三尺玉　海上自爆**
８：45　海上自爆
８：50　**鬼ヶ城大仕掛け第一弾**　（鬼ヶ城）
　　彩色千輪一夢幻

９：00　平成２０年記念花火
９：05　**鬼ヶ城大仕掛け第二弾**
　　第一部　波濤の響　小波の舞
　　第二部　巌頭のとどろき

以上が今年のプログラムです。
太字の物は見逃してはならないものです。
昔は終わるのが午前０時なんてこともあったのですが、今は少々テンポ良くやりすぎて早々と終わります。

このプログラムでも分かるように、この花火はお盆の追善花火の色を濃く残しています。
一番最初に仕掛け・追善の花園は木本町内の初盆の家は全部協賛に入ります。
他に『追善』の冠をかぶった物は個人の家の初盆の物とスポンサー企業の物があります。

海上自爆・三尺玉海上自爆があり、仕掛けや打ち上げが海に浮かべた二隻の台船から行うこともあり、当日は鬼ヶ城から会場の前に掛けての海も規制がかかり、幅 2700ｍ　沖に向かっては約 1000ｍ船舶航行禁止区域になります。
客船『あすかＩＩ』はこのすぐ外で花火見物をすることになります。

浜は８月１２日に主催者による『浜割』が行われ、通路、露天商の場所、観光バス用見物席、有料浜席が確保されます。
すでにビニールテープで場所の確保に動いているのが見られますが、中心部の物は

主催者によって撤去されます。
　分かっているはずなのに、絶対に個人では確保できない地域…我が家の前あたりの昔から観光バスなどのために確保される所に綱を引く人が居ます。
　この『浜割』と言う作業は炎天下の砂利浜での作業で、地獄のような物です。
　勝手に引っ張ったテープの除去なんて余分な作業が入るのでなおさらです。
　国道沿いの堤防には桟敷が組み立てられ始めました。
　この仕事も、焼け入ったコンクリートの上の仕事ですから大変な物です。
　今は、コンジットパイプと金具で組み上げるのはほとんどですから随分楽になっていますがね。

Tags:熊野市 熊野大花火 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-08-07 11:27 |

2008 年　08 月　08 日

熊野の旅　今年もありました　太鼓の祭典

　もう十数回になるのかと思いますが、真夏のイベント、『響鼓 in 熊野』と言うイベントが８月３日の午後から夜にかけてありました。
　『響鼓』は「きょうこ」と詠むのだそうです。
　そもそもはこのイベント、会場になっている熊野市の商店街、『記念通り』の商業協同組合が主体となって、町おこしのために始めた物でした。
　紀伊半島一円の太鼓を集めて昼間から夜にかけて叩いてもらおう…というものです。
　日本中、太鼓だらけの世の中なので出演するバンド？は結構集まります。
　太鼓を一日中たたくなんて、おおよそうるさくて近所迷惑な話なのですが、会場になる記念通りの道路はちょうど後ろ側が木本小学校の校舎になり、前半分はスーパー・オークワだし。他も商店だけなので迷惑を掛けないでやれる条件なのです。
　バスどおりとは言え、この記念通りは１０時間ほども交通止めにしても大して影響

の無い道路ですしね、

熊野古道歩きの人も一部も通る道ですが、全部通った所でたいしたことの無い数ですから問題はありません。

私が写真を撮りに行ったのは午後３時ごろで、叩きだしていくつかのグループが終わった頃です。

折りしもイベントには最適の上天気…でも…８月ですからまさに灼熱地獄の屋外会場です。

うんと辛抱強い人がパラパラと見物していました。

私から見ると、こんな暑いさなかによく太鼓なんか聞く気になるなあ…と言う光景です。

もっとも、見ている数十人の多くは、出演者関係と主催者関係が多くて、本当の見物人は…

こうしたイベントも田舎では客を呼ぶのは大変です。

都会なら、『恒例』になって、少し名前が通ってくると、『一度見てみようか…』と言う客が集まり、年々人出が増えてくるものです。

田舎は、名前が通るのには時間はかかりません。すぐに有名になり『一度行ってみるか…』とすぐに人が来ます。

しかし、総人口２万人、老人が 30%を越し、ものすごく広くてまともに交通機関も無い田舎ではすぐに見込み客、来場可能な野次馬を使い果たします。

恒例になってくると、『太鼓の好きな人』『三人人が集まったら必ず顔を見せる人』以外のフリーのお客さんが居なくなってしまうのです。

私はこのイベントもほんのちょこっと写真を撮りに行くだけです。

桜井だとか遠来のグループも毎年来てくれています。

しかし…そのグループにファンが出来るようなものでもなし…

地元の太鼓がどっさり出るわけでもなし…

集客力の面では弱いですね。

カメラは　　オリンパス・ワイド

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-08-08 12:01

2008年　08月　09日

熊野の旅　太鼓の祭典　2　手作りから既製品へ

この太鼓のイベント『響鼓 in 熊野』は会場の商店街の商業組合が母体ではじまったと書きました。　スタートは「商店街振興補助事業」みたいなものに乗っかって、商店主たちが駆け回って準備し開催した物です。

設営だとか当日の切り盛りなどにも商店主の顔が見え、市の職員の協力ありで手作り感のあるものでした。

しかし…大掛かりな舞台に音響装置を動員するようなイベントになると、素人集団のやれる範囲は限られています。

太鼓の演奏にここまでの音響設備をしなくてはならないなんて…

和太鼓ってそんなちょろこい物なのでしょうかね。

司会者用の音声装置ではありません。

とにかくこれだけのスタッフを使ってやっているのです。

会場が陸上競技場とか運動場のような広い場所ならいざ知れず、後は反射板になる三階建ての校舎、正面だけは道路がまっすぐ伸びているけどすぐ横からは狭目の二車線に歩道の付いた町中の道です。

なんだか、イベントのためのイベント…と言う感じもします。

昨日の記事のコメントで、たまたま今の時期に熊野古道歩きにこられた方が、『ポスター』を眼にされたと言うことを書かれていました。

そうなんです…

花火大会並みに立派なポスターが作られ、随分広範囲に張り出されます。

それなのに…

昼間の部の観客は数十人…

夜間の部に供えて、こうした照明装置が記念通り全般に配置されています。

商店街だと言うのに『発電機』もセットの物です。

これが手際よく手配され準備されます。

そして…
舞台の進行を預かる『司会者』は他所から来た中途半端な『プロ』の女の子です。
三重県中をこうしたイベントにくっ付いて廻っているらしいです。
上手いと言えば上手い…しかし、面白みは全くなし…なにより…心が無い！！！
厳しいかもしれませんが、そうしたものは観衆に伝わります。
取り立てて不満に思わなくても、心に響きません。
太鼓もスピーカーを通して増幅した物ですしね・

舞台の上では猛暑の中、遠来の出演者たちが汗を飛ばしながら一生懸命叩いています。
でも、イベント屋さんが組み立てた『イベントのためのイベント』ではもう一つ盛り上がりませんね。
見物客が居ないだけになおさらでしょう。

このイベントは地元商店街の手を離れても、これだけの金を掛けられるものなのです。
恒例になった豪華ポスターのお金だけでも…
夕方からのビアガーデンのビールをただにする方が安いような気もします。
司会者も言っていましたが、夏になると毎週どこかで太鼓をたたくイベントｆがあるのです。
司会者は言いませんが、どこでもここでも太鼓を叩くのですから、遠来の観客なんて望めないんです。
遠来の人はイベント屋さんと司会者さんと出演者と装置のリース屋さんくらいなのです。
でも、こうしないとお金が出ないシステムなのは日本共通、霞ヶ関感覚なのでしょう。

高い安いは手作りの時、公金が絡むと見積もり書が出て形が整う方が大事なのです。そうでないと予算が組めないし、執行しにくいからです。

ちょいと厳しいですが、こんなイベントが全国で実に多くやられているのです。
で…一部の人が喜んでいるのです。
そして、マスコミはガラガラの会場は写さないで嬉しそうに『イベントがありました！』とローカルニュースで流すのです。
でも、裏方で一生懸命汗を流す市職の人やボランティアの人もいるのです。
こちらは本当にご苦労さんです。
どのイベントにも刈り出されて、休みがあまり無くなる人まで居ますからね。

カメラは オリンパス・ワイド

Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ by **je2luz** | 2008-08-09 12:24

2008 年 08 月 10 日

熊野の旅　太鼓の祭典　イベントは疲れる

イベントと言う物はものすごくエネルギーの要るものです。
企画・調整・準備・実行…どの段階も楽しいと言えば楽しい、しんどいと言えばしんどい物です。
立ち上げる時には、企画調整がものすごく大変ですが、段々この部分は楽になってきます。
立ち上げの時はものすごい熱意でこの難問を乗り越えます。乗り越えられた物だけが実行され一般の人の目に触れるのです。
何度もやって、この部分が楽になった頃には、マンネリ化が始まります。
『恒例の…』と言う看板が乗っかる頃にはマンネリ化しよいと言う事です。
準備も実行も立ち上げのなれないときに比べ、段々と慣れてきて手際よくなって少し楽になります。
しかし、労力の要る部分はやはり汗水をたらすしかありません。
そうした部分を予算があれば、プロ…『企画屋』に任せるようになりますね。
この、企画屋さんと言うのは経営者は別にして、現場は常に若い人ですね。
１０年前に現場に居た人は今どうしているのでしょうね。まさか、全部重役になって本部にいるはずもなし…
企画屋さんはまだ良いのですが、民間サイドの方は入れ替わりが無いのでボランティアの『市職労組』などの組織を除いて、どんどん年をとります。
同じ企画のところには中々新しい血は入りません。
舞台の裏の裏では、『元若かった…』商店主の顔も少しありましたが、昔と違いも

のすごくしんどそうでした。

　真夏のイベント…昼間からの興行…
　汗を飛ばして太鼓を叩く人、テントの下で音響の調整をする人、放送局の取材のカメラ…こんなのが目立っていて、大変そうに見えますが、本当にしんどいのはその裏っ側でしょうね。
　イベントとは疲れるものです。
　その割りに、中々地元に密着しない物です。
　そして…同じようなイベントも中々合流しない物です。
　だから、年中イベントがあって、少ない見込み客が分散してしまいうのです。
　ご苦労さんなことです。
　裏方さんも来年は一つ年をとります。

　カメラはオリンパス・ワイド
Tags:熊野市 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-08-10 12:53

2008年　08月　11日

熊野の旅　太鼓の祭典　それでも太鼓は響く

　ものすごい体力を要求する真夏のイベントの『響鼓 in 熊野』ですが、８月第一日曜日と言う梅雨が完全に明けた、『土用』の日照りの時期に開催なので例年天気には恵まれています。
　雨には全く弱い『和太鼓』と言う楽器が主役ですから、まさにお天気しだいのイベントです。
　天気が悪かったら困るし、上天気だと日干しになるほど暑いし…
　『暑い』を通り越して『熱い』に近くなります。
　それでも、熊野市は名古屋や大阪・東京のような北のほうにあっても大都市化してしまったところより、夏場の最高気温は４・５度低めです。
　目の前の巨大な青い保冷装置の太平洋と、後にある緑の冷却装置のおかげです。

『熱いのーー』
『茹だってくみたいなのー』
『ゆうべら、寝れなんだで・・・』
『蒸せったでのう・・・』
なんてのが、挨拶代わりになっていますが、都心部でクーラーを入れたとき並みの気温で文句を言っていては罰が当たるかもしれませんね。
それでも、ここで暮らしていると３０度を少し越すと、ものすごく暑く感じます。
暑すぎて、見物人も出てこない真夏の午後、舞台の上では出演者は頑張って太鼓を叩いています。
たまに笛などを入れて趣向を変えていますが、どんなに大きな物を加えて迫力を出しても、和太鼓演奏はリズム楽器の集団です。
音がうるさすぎて、合いの手の掛け声以外、『歌』にも合いません。
門外漢には長く聞いていると同じに聞こえてくるのです。
と、言うことで…
数少ない太鼓好きの見物人の前で、手を抜くことの出来ない演奏を頑張ってやってくれています。
夜の部になってくると、生ビールを目当てにもう少し大勢の観客が出てくるのですがね、

出演順はくじ引きなんでしょうかね？
早い出番だとお気の毒みたいです。
それでも、熊野の青空に太鼓の音が響きます。
そして、来年の８月にも響くのだと思います。
熊野市の『市職労』の協力のある間は裏方も賄えるでしょうからね。

カメラは　クラウン・グラフィック＋トプコール 65mm
Tags:熊野市 クラシックカメラ モノクロ　by **je2luz** | 2008-08-11 11:10